

きずな(絆) No.35 発行:全日本民医連 震災対策本部

★★関連情報・重要なおしらせを全日本民医連 H.P に掲載しています。活用してください。

全国の仲間で被災者のもとへ！民医連綱領の実践を

■「民医連のつながりの力を実感」愛知・医療法人名南会



名南会の事務は、長町病院地域と若林クリニック地域の全戸訪問で、大阪の看護師と滋賀の介護士の3人でチームを組み、医療などで困っていることはないか確認で回りました。最も印象に残っているのは最後に訪問したお宅です。被災前後から血圧が170近いという女性と対話し「早めに受診してくださいね」と声をかけ家を出ようと挨拶しかけたら、急に看護師の手を握り締め「妹が津波でなくなりお嫁さんもまだ見つからないんです」と泣き出しました。それまで

笑顔で話していたのに堰を切ったように泣き出しました。実際に目の前の人から自分が聞くと本当に言葉が出ませんでした。訪問では、働く場所が違う人たちが特に相談もしないのにすぐに訪問で対話できる民医連のつながりの力を実感しました。(東日本大震災「愛知民医連支援ニュース No.13」4/9より)

■「自分の社会的存在意義を直に感じられる支援」石川民医連

医師から多賀城中学の避難所での支援報告です。「新たにインフルエンザが発生していますが、吐き下しは減少傾向です。避難所の衛生環境が悪いわけではなく、保育園の風邪と一緒に集団生活自体が感染拡大の原因だと思います。全国の支援物資の中からレトルトのお粥だけかき集めて高齢者や胃腸炎のひとたちに炊き出しをし、皆さん喜んでくれました。自衛隊がバスで基地の風呂へ避難者を連れていってくれましたが、足が不自由などでバスに乗れない人のために、しばらくぶりに足浴場を開き大好評で、明日は40人待ちだそうです。避難者の人たちの笑顔もさることながら全国から来た支援者の仲間たちの笑顔が印象的でした。こういうところだと自分の社会的存在意義を直に感じられる気がしてもっと頑張れる気もします」(東日本大震災「石川民医連支援ニュース No.18」4/7より)



■「被災者を身近に思う気持ち温かく伝わる」静岡健生会



浜町佐藤町診療所の所長が4月4日に、東日本震災支援活動の報告会を行い、NHK、民放、新聞社が取材に訪れ、当日夜にテレビ放映、翌日の新聞で報道されました。所長は、静岡民医連として震災後から交代で医師を送り出し、震災直後も被災は多大なものでしたが、避難所の状況から感染症やエコノミー症候群など、今後も精神的ケアを含めて中長期的支援が不可欠であるなど実態を報告しました。翌日の外来や往診患者から所長に対し、「お疲れ様でした。先生ありがとう」と多くの言葉がかけられました。

現地に行くことはできないが所長をねぎらうことで、被災した方をすこしでも身近に思う気持ちが患者から温かく伝わってきました。(静岡健生会 浜松佐藤町診療所 4/10より)

<おしらせ> ****

○法人・事業所・県連が発行された支援ニュースや新聞報道掲載記事などは、info@min-iren.gr.jp(全日本民医連代表アドレス)に、集中してください。

○全日本民医連HPで関連情報・動画を掲載。活用し職場での意思統一、学習会を積極的に開催しよう。
